



TITLE:

# 講義ノート 第54回物性若手夏の学校(2009年度)

AUTHOR(S):

---

CITATION:

講義ノート 第54回物性若手夏の学校(2009年度). 物性研究 2010, 93(6): 713-713

ISSUE DATE:

2010-03-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/169265>

RIGHT:

---

## 講義ノート

---

### 第54回 物性若手夏の学校 (2009年度)

私たちが企画した夏の学校は、2009年8月21日～25日の5日間の日程で、長野県下高井郡はシャレードイン志賀にて行われました。高原地帯ということもあり夏の暑さもさほどなく、快適な交流の場であったと記憶しています。

第54回物性若手夏の学校においては、小野田勝先生、上妻幹旺先生、社本真一先生、瀧川仁先生、土井正男先生、村上洋一先生、大谷実先生、岡村英一先生、香取眞理先生、中垣俊之先生、野村竜司先生、宮崎州正先生、以上12名の先生方に講義を行っていただきました。お忙しい中、講義のために時間を割いてくださった講師の皆様には感謝の念に堪えません。この講義ノートは講師の皆様手ずから執筆くださった資料を夏の学校準備局が編纂したものです。

講義ノートの内容は大学院初年度レベルを想定しており、わかりやすいものばかりです。また取扱うトピックは若手有志からなる世話人が各々の学術的興味にもとづき依頼を行ったため、その構成はこんにちの若手研究者の興味の縮図といえましょう。以上の点から、この講義ノートは若い世代のための物性物理の教材として有用であるばかりではなく、物性研究の歴史的資料としても意義のあるものといえます。

私たち第54回準備局員は「ex-broaden your outlook (爆発的に視野を広げる)」というスローガンを掲げ運営を行ってきました。その観点から、今後この講義ノートを読んで新たな世代が物理学のみならず学問全体に対する広い見識を獲得し、科学界の興隆へ貢献することを期待せずにはられません。

現在、物性若手夏の学校の運営は全国の有志の手で行われております。運営に携わった経験、活動を共にしたすべての人とのつながりは非常に貴重なものでした。また現在も、次回の物性若手夏の学校の準備が新たなスタッフの手で着々と進められております。更なる発展を続けていくであろうこの夏の学校を今後ともよろしくお願い致します。

最後に、夏の学校にご賛同いただき、多大なご支援をくださいました京都大学基礎物理学研究所、材料科学技術振興財団、東京大学物性研究所、東北大学金属材料研究所には深く感謝致します。また、協賛いただきました多数の企業、寄付およびご助言くださいました夏の学校OBの皆様にも、この場を借りて御礼申し上げます。

第54回物性若手夏の学校準備局  
代表 明石 遼介